

# ステビアの栽培法確立に関する研究

## 第1報 さし木繁殖について

江畑正之・上妻道紀

(鹿児島県農業試験場)

EBATA, M. and KOUZUMA, M.

Studies on Cultivation of *stevia rebaudiana*, Bertoni

### 1. Propagation by Cutting Methodes

ステビアは南米、パラグアイに自生する菊科の多年生草本で、その甘味度は蔗糖の約300倍程度あり、今後自然甘味資源物として期待されている。ステビアは実生、株分け、さし穂による繁殖が可能であると報告されているが、実生による繁殖は発芽歩合が低く、育苗が困難である。そこで本試験では、さし木繁殖の中で、さし穂の条件について1~2の試験結果を得たので報告する。

#### 試験Ⅰ. さし穂の部位と発根力に関する試験

##### 1. 試験方法

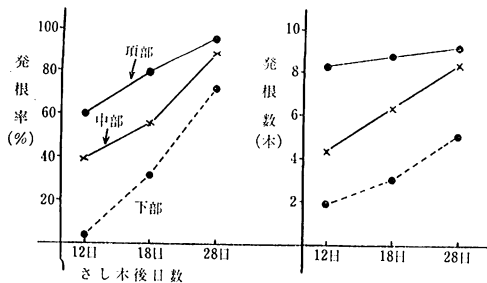
さし穂の部位を第1図のように頂部、中部、下部に分けて1974年8月2日に川砂床に、さし穂を行ない、発根率、発根数、発根長について調査した。



第1図 さし穂の部位

##### 2. 試験結果および考察

部位別発根率は第2図に示すとおり、頂部はさし穂後7日目頂から発根が始り、28日目には96%の高い発根率



第2図 さし穂の部位と発根率, 発根数

を示した。一方中部、下部は明らかに頂部に劣るが、さし木後28日目には80~90%前後の発根率を示した。

次に発根数についてみると、発根率と同様な傾向で、頂部が早くから多くの発根が認められ、次いで中部>下部の順であった。

以上の結果から、さし穂の部位としては、いく分軟くて活力のある頂部ほど発根力が高く、木化の進んだ下部ほど発根力は劣るが、中部以下のさし穂でも十分利用できることが明らかになった。

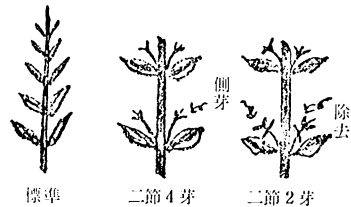
#### 試験Ⅱ. 側枝の多少と発根力に関する試験

##### 1. 試験方法

ア) さし木日付 1974年8月10日

イ) さし床 川砂床

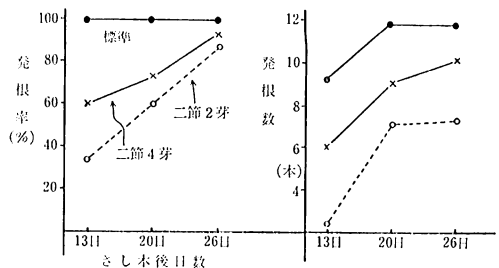
ウ) 処理 標準 二節4芽 二節2芽



第3図 さし穂の状態

##### 2. 試験結果および考察

試験Ⅰで中部以下のさし穂でも利用できることが判明したので、本試験では、さし穂を調整する際に、側枝の



第4図 側枝の多少と発根率, 発根数

除去が発根におよぼす影響について、検討した結果、第4図に示すとおり、二節4芽が二節2芽に比べて、高い発根率を示し、発根数ならびに苗の伸長も明らかに二節4芽が勝っている。

このことは、葉あるいは側枝に発根に必要な貯蔵養分（炭水物・N化合物）あるいは、発根促進ホルモンが多く含まれているためと思われる。

以上のことから、葉ならびに側枝は多いほど、発根能力は高いことが明らかであるので、さし床の水分状態を

良くして、葉、側枝はできるだけ除去せずにさし木した方が発根能力が高い。

#### 引用文献

- 1) 熱帯農業（第17巻2号）ステビアの栽培について
- 2) 同上（第17巻3号）ステビアの栽培に関する研究
- 3) 北海道農試（1972）ステビアに関する試験成績書
- 4) 森下義郎・大山浪雄：共著，さし木の理論と実際